

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
技術戦略経営 Strategic Management of Technology		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択 ( )		
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ビジネス実務総論Ⅰ・Ⅱ、経済学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ビジネスイノベーション論、地域社会起業家論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長江 庸泰	本館2F (研究室4)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
技術経営戦略とは、技術力の費用対効果を最大化し、事業を持続的に発展させるために、次世代の技術を創出し、戦略的イノベーションの推進を行い、研究・開発の効率化を図る企業マネジメントの体系である。本講義では「技術感覚」と「戦略思考」を身につけ、自分の頭で考え「問題発見・解決」に秀でた人材を育成する。				
授業の目標				
①「競争・市場環境と技術経営戦略（競争優位の基本戦略、技術と競争優位、価値連鎖と技術戦略、コトラーの新製品開発）」を習得できるようにする。 ②「技術戦略と研究開発マネジメント（研究開発プロセス）」を習得できるようにする。 ③「研究開発マネジメント（研究開発予算管理）」を習得できるようにする。 ④「知的財産権マネジメントとアライアンスマネジメント（企業間ネットワーク、アライアンスマネジメント）」を習得できるようにする。 ⑤「生産マネジメント（コモディティ化への対応戦略）」を習得できるようにする。				
授業の方法				
本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、技術戦略経営に精通した人材育成を目指すものである。				
学習の成果（学習成果）				
①競争優位の基本戦略、技術と競争優位、技術戦略マネジメント、②研究開発マネジメントと製品開発マネジメント、③アライアンスマネジメントと生産マネジメント等の知識・概念に習熟し、1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法をビジネスシーンにおいて活用できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスの解説・授業の狙いと進め方・成績評価等）			
第2回目	競争・市場環境と技術経営戦略①（競争優位の基本戦略、技術と競争優位、価値連鎖と技術戦略）			
第3回目	競争・市場環境と技術経営戦略②（技術革新と市場ニーズ、コトラーの新製品開発、製品開発プロセス）			
第4回目	技術戦略①（技術戦略策定プロセス、技術戦略策定プロセスの各機能）			
第5回目	技術戦略②（技術戦略と参入障壁、技術ポートフォリオ、イノベーション）			
第6回目	研究開発マネジメント①（研究開発プロセス）			

第7回目	研究開発マネジメント②（研究開発予算管理）	
第8回目	製品開発マネジメント①（製品開発プロセス、製品開発プロセスの効率化）	
第9回目	製品開発マネジメント②（製品開発組織、プロジェクトマネジメント）	
第10回目	知的財産権マネジメント（知的財産管理の必要性、知的財産権の利用・評価、知的財産権戦略）	
第11回目	アライアンスマネジメント①（アライアンスの必要性、アライアンスの種類・形態）	
第12回目	アライアンスマネジメント②（企業間ネットワーク、アライアンスマネジメント）	
第13回目	生産マネジメント①（生産管理、工程管理、I E）	
第14回目	生産マネジメント②（品質管理、資材購買管理）	
第15回目	生産マネジメント③（コモディティ化への対応戦略）	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	以下の3点から評価する：①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。
レポート	30%	Sのレポートの評価：①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月1回計4回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書		
小テスト	40%	グループワークによるプレゼンテーション力のS評価：①内容が創意工夫した発表となっている、②グループの意見が論理的に述べられている、③グループで協働し、積極的に質疑応答に臨んでいる。
試験		
発表内容（態度含む）	20%	Sのレポート発表評価：①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他		上記評価基準に基づき成績評価：S（傑出した内容）=90-100、A（平均を上回る内容）=80-89、B（平均的内容）=70-79、C（平均を下回る内容）=60-69、D（左記以外の内容）=0-59
教科書と参考図書		
長江庸泰作成の“デジタルテキスト[技術戦略経営 2015年度版]”を活用する。		
履修上の留意点・ルール		
本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法」を常に心掛けましょう。		